

## 承德派遣を終えて

荒井 真彦（団長）

5年ぶりの訪問となる承德派遣、高校生・大学生5名を含む計7名の訪問団としてこの夏承德を訪れました。

昨年 2023 年は柏市承德市友好都市提携40周年を迎え、この秋には、両市の40年以上の長きにわたる友情・交流をお祝いして市民訪問団が承德を訪れます。

私自身、今回3回目の承德訪問となりますが、柏の学生たちとの訪問は、これまでの大人だけの訪問と異なり、格別なものでした。今年は、初めて同じ年に相互派遣・交流を試み、8月初めに承德訪問団を柏にお招きし、そして、8月終わりに私たちが訪問しました。そのせいもあってか、承德到着時には再会を互いに喜び、そして、今回、心から感謝すべきことに、柏からの派遣生は承德からの派遣生のお宅にホームステイさせていただきました。日を追うごとに、お互いが旧くからの友だちのように、姉妹ようになっていった姿はとても微笑ましかったです。

承德は清の時代の離宮であり、暑い北京の夏を避けるために、世界遺産でもある避暑山荘が作られました。清の時代の成り立ちを知ると、承德が満民族、モンゴル文化にいかにか影響を受けてきたのかが分かりました。

今回の訪問では、河北民族師範学院、承德第一中学、承德第二中学、大学1校と高校2校を訪問させていただきました。河北民族師範学院では、大学間の国際交流についても話し合うことができ、これからの両国、両市の交流の未来を感じることができました。

承德第一中学、承德第二中学は、この夏柏を訪れた学生たちが通う高校であり、承德第一中学は、市立柏高校の姉妹校でもあります。承德第一中学は3000人近い学生が学ぶ、全寮制の高校です。日夜勉学に勤んでいる様子が学校の掲示板や教室の廊下の掲示等からも伺うことができ、13億人が住む中国のパワーを改めて感じました。承德第二中学では、日本語を学ぶ学生が30名ほど出迎えてくれて、楽しい交流の時間をもつことができました。もともと外国語教育に特色のある学校ですが、現在、承德第二中学では100名を超える学生が日本語を学んでいるそうです。学校訪問を通じた学生間交流の時間を多く持てたことで、中国と日本、国は違うけれども、同世代の学生が何を感じ、何を考えているのかを互いに知る貴重な機会となったのではないのでしょうか？

承德市外事弁公室の閻洋主任、王斌国際交流科長とは10年を超えるお付き合いとなります。

今回も歓迎していただき、懐かしい話に花も咲かせながら、新しい時代の交流のあり方についても様々な角度から、色々な話をすることができました。老朋友に非常感謝。

最後に、今回このような貴重な経験をさせていただき、ご協力、支援、応援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

